

# リハビリテーション科

リハビリ科長 ハ木 輝彦 (理学療法士)

## 1. 令和6年度 科内目標

### 《 業務目標 》

#### 1. 業務の効率化を図る

患者対応以外の業務内容の確認を行い、業務の実態を認識した上で効率化の検討、実施を進める

#### 2. 脳血管外科の対応をこれまでの実績を踏まえて再検討する

①脳外科手術の開始、術後リハビリの標準化の再確認

②脳卒中パスの運用検討を行い、最適化を進める

③脳外科回診・カンファレンスを開始して標準化する

④脳外科術後リスク管理等の勉強会の開催

#### 3. 再開となった整形外科の術後リハビリや退院後の対応など実績を踏まえ対応を検討する

①各術後リハビリのプログラムを作成する

②プログラムの周知と勉強会の実施

③運用内容確認と標準化

#### 4. ウイークデイのリハビリ対応の充実を図る

月曜日から土曜日まで充実したリハビリテーション提供を進める

休日の出勤人数を最低限として土曜日を2名、祝日も2名体制としてウイークデイのリハビリ対応を充実させる

#### 5. 他部署との連携の再検討と各カンファレンスの削減効率化を進める

①病棟担当療法士の配置を実施。医師・看護師・多職種スタッフ出席のカンファレンスへ参加し、リハビリカンファレンスとしても意味を持たせ、現行までのリハビリカンファレンスを縮小していく。

②整形外科スタッフとの連携を進める

### 《 数値目標 》

#### 1. 療法士1人の1日あたり算定単位数の年間平均を18単位相当とする

#### 2. 業務の効率化を行い、時間外時間の是正を継続する。1ヶ月1人10時間以内を目指す。

## 2. 診療体制（施設基準・特徴・臨床活動）・スタッフ

当科は、外来スペースにリハビリ室1(81.04 m<sup>2</sup>)と言語聴覚室(10.62 m<sup>2</sup>)、4階病棟に心疾患リハビリテーション室(32.63 m<sup>2</sup>)、5階病棟にリハビリ室2(16.43 m<sup>2</sup>)、6階病棟にリハビリ室3(16.43 m<sup>2</sup>)を設けている。

### 施設基準

- 脳血管疾患等リハビリテーションⅡ
- 廃用症候群リハビリテーションⅡ
- 運動器疾患リハビリテーションⅠ
- 呼吸器疾患リハビリテーションⅠ
- がん患者リハビリテーション
- 心大血管疾患リハビリテーションⅠ

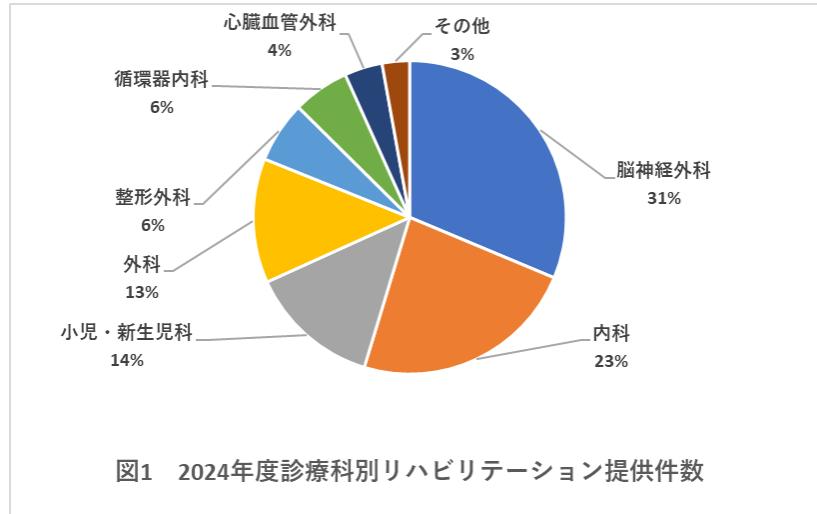
### スタッフ 18名

- 医師 1名
- 理学療法士 8名
- 作業療法士 4名
- 言語聴覚士 3名
- 事務補助員 2名

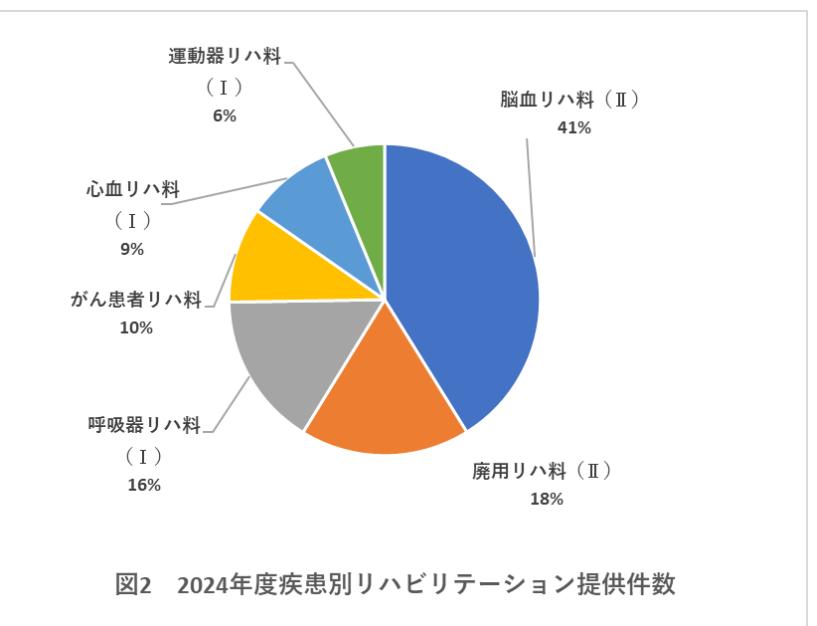
リハビリテーション部門として、月曜から土曜日まで連続したリハビリテーションを提供している。

### 3. 年間統計

診療科	延べ件数
脳神経外科	7247
内科	5418
小児・新生児科	3137
外科	2973
整形外科	1465
循環器内科	1351
心臓血管外科	908
その他	657
総計	23156



疾患別リハ	延べ件数
脳血リハ料（Ⅱ）	9528
廃用リハ料（Ⅱ）	4085
呼吸器リハ料（Ⅰ）	3696
がん患者リハ料	2303
心血リハ料（Ⅰ）	2101
運動器リハ料（Ⅰ）	1443
総計	23156



### 4. 1年間の総括

リハビリテーション科の療法士はPT1名・ST1名が増員され、PT8名・OT4名・ST3名の15名体制となった。しかし昨年度からPT1名が育休中であり、入職したST1名が退職となったことで、13名体制での業務遂行となった。

数値実績では、全体の患者対応件数が前年度20,719件から2,437件増加し、令和6年は23,156件となった。

脳神経外科の受け入れが本格的に開始され、ICU管理の入院直後から積極的な早期介入を行った。脳神経外科主催の勉強会の参加、脳卒中パスの標準化、脳卒中パス会議への参加も継続し、脳神経外科回診・カンファレンスを多職種と連携して実施し標準化された。

脳神経外科の患者実績も前年度6,250件から令和6年度は990件増加して7,247件となった。脳血管疾患等リハビリテーション料の算定件数も昨年8,543件から9,528件に増加している。

脳血管疾患リハビリテーション料が算定数の低い「Ⅱの基準」であることが非常に残念である。

整形外科の入院診療が再開され、年間 100 件の手術後の患者に対応すべく、手の外科を OT チームが対応し、勉強会や外部研修などに参加して対応した。

療法士 1 人 1 日の単位数については、目標を 18 単位相当として、診療報酬点数以外のカンファレンスや委員会なども重要な業務と見なし、実施時間を単位と換算して業務充足率として対応を行った。

単位実績のみでは、前年平均 14.8 単位から令和 6 年度は平均 16.0 単位となり 1.2 の増加し、業務充足率では 18 単位を 100% として、令和 6 年度は充足率 99% であった。

時間外業務時間数の是正についても前年度は療法士 1 人 1 ヶ月平均 10.7 時間であったが、業務時間内に必要業務効率的に組み入れることにより、令和 6 年度は、1 人 1 ヶ月平均 7.8 時間となり、目標を達成することが出来た。

## 5. 今後の目標

新人教育体制の強化と専門性向上を目指し、認定資格取得者を増やす

- ・新人教育の流れを明文化し、1 年間の教育プログラムを作成する
- ・定期的な勉強会・フィードバック面談を実施し、教育体制を強化
- ・認定資格取得者を増やし、取得後の役割を明確化する